



「顔の見える地域連携」を目指した多職種での情報交換と学びの会  
それが、地域医療ネットワークの会です!

## 2026年2月16日(月) 第51回 地域医療ネットワークの会 一心不全チームがつなく希望の医療

我が国は超高齢化社会の進展と生活習慣の欧米化により心不全患者が急増しており、「心不全パンデミック」と呼ばれる状況にあります。2030年には心不全患者数が130万人超と推計され、心不全の予防と進行抑制には、医療機関での治療に加え、患者自身による徹底した生活管理が不可欠となるといわれております。

第51回では、当院で治療を受けた心不全患者を地域へスムーズにバトンを渡せるよう、また更なる地域との連携をはかり、地域全体での心不全ケアを考える機会にしたいと考え、当院の心不全チームにおける活動を紹介しました。今回はWebexを用いたオンラインで開催し、33施設98名の参加がありました。

座長：聖マリアンナ医科大学病院 メディカルサポートセンター 十河氏

演者：心不全とのかかわり 聖マリアンナ医科大学病院 循環器内科 鈴木規雄医師

演者：多職種で取り組むチームの力 聖マリアンナ医科大学病院 心不全チーム

- ・外来における心不全看護 外来看護師・福本茜氏
- ・循環器病棟での心不全指導介入 7西病棟看護師・松原日南乃氏
- ・心不全患者への栄養介入 管理栄養士・小池沙弥氏
- ・心不全患者の薬剤管理 薬剤師・高橋茉莉子氏
- ・心不全患者へのリハビリテーション リハビリテーション技術部・栗原小百合氏

### ★講演の内容「心不全がつなく希望の医療」

高齢化で急増する心不全に対し、入院から在宅までを支える「多職種連携」と「患者中心の栄養管理」の重要性を共有しました。管理栄養士配置や、CPXIに基づく具体的運動処方、薬剤サマリーによる地域共有など、専門職が一体となった介入を推進します。ACP導入や心不全教室を通じ、患者の意思と生活に寄り添う体制を構築。地域全体で切れ目のない支援を行い、患者中心の継続的なケア体制の構築と、早期退院と再入院防止を目指す当院の取り組みを紹介しました。

### ★私たちが感じる「支援の壁」

アンケートでは、「入院中と在宅生活のギャップ」の悩みが多く挙がりました。退院後の調理や食事などの環境・生活背景により、塩分・水分制限の継続が難しい状況であったり、利尿剤による脱水管理の難しさが浮き彫りになっています。また、訪問看護現場からは「退院後に指導内容を忘れてしまう」との声もありました。入院中から行動変容へ繋げられるか、自覚症状があっても我慢強く言わない世代へ、どう具体的に疲労度を伝えるかが共通の課題となりました。さらに、認知症対応から若年層の両立支援、終末期ケアまで、ニーズの多様化も再認識したという声が聞かれました。

### ★連携の輪を強く! 切れ目なく!

入院になる手前から地域連携や、外来・病棟・地域が一体となった情報共有の重要性を改めて実感いたしました。心不全患者さんを支えるには、医療的なスキルに加え「生活を想像する力」と職種の垣根を超えた「顔の見える連携」が不可欠であると再認識しました。今後も皆様と共に知恵を絞り、地域全体で支える仕組みを良いものにしていければと考えます。